

平成26年度 見附市国語部 活動報告

部長 近久美子

1 研究の目的

新学習指導要領では、思考力・表現力・判断力の育成が中核に挙げられている。国語科ではぐくむ表現力について考え、表現力を育てるための教材開発や言語活動の在り方について探る。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

○講義と演習

小中連携を見据えた国語教育の在り方「論理的思考力を育てる国語科授業」

○講師 長岡市立栃尾東小学校 校長 桜井真理 様

(2) 日時

平成26年 8月 21日

(3) 会場 見附市立南中学校会議室



3 研究の実際

(1) 講義～説明的な文章から～

思考力と感性を育てるために、それぞれの学年で押さえるべき内容を系統立てて学習を進めることで“自分の考えを形成していく”ことへ繋がる。

例 1・2年生の「順序や事柄」

3・4年生の「段落相互の関係や事実と意見」

5・6年生の「事実と感想、意見→自分の考えを明確に」 など

(2) 演習～説明文「すがたをかえる大豆」から～

本文をバラバラにし、並べ替えをした。並べ替えをする際に、説明文の構成に目を向けたり、文末やキーセンテンス、接続語、また、内容のつながりにも着目したりすることができた。このような構造読みをすることは、論理的な思考力をつけるのに有効であった。



4 成果と課題

「自分の考えを形成できる子どもにするために、どのように授業を改善するか」という視点に立った講義と演習であり、すぐに実践に繋がるものであった。学年間、小中の学習を系統立てて考えた上で日々の授業を構成することの大切さを学んだ研修であった。